

校長室から こんにちは

「いじめる理由があっても、 いじめてもよい理由は、ない！！」

12月人権集会で「ジェリービーインズ」に公演をお願いしました。公演では、自分達の辛かった不登校体験が語られました。子どもたちも真剣に聴いていました。自分が苦しかったとき、どれほど親のことば、親の思い、友だちのことばに支えられてきたか、そこから感じたこと気づいた思いを「かけがえのない自分」「自分を大切に」「命の尊さ」「ひとりじゃないんだ」というメッセージを込めて歌って下さいました。そして最後に、「今を生きる」ことの大切さ、自分一人で悩まず必ず相談することの大切さを子どもたちに伝えて下さいました。

この頃、子どもたちの会話を聞いていると、からかうようなことばをときどき耳にすることがあります。TVで「いじる」という場面があり、周囲の出演者がそれを容認し、笑いにしていることがよく見られます。両方が承知の上で演じているにしても、笑いのレベルも地に落ちた感があります。その影響かは定かではありませんが、教室等で「いじること」を真似る行動が見られるようです。そして、子どもたちは、「いじめである」とは気がつかないようです。

学校では、子どもたちの行動について「それはいじめである」とはっきりと指摘し気づかせ、「自分が人からされて嫌なことは人にしない。」を基本に、「言われた相手」「された相手」がどう思うか、相手の気持ちを想像し、どうすれば良かったのか、個々の事案についてそれぞれの気持ちを受けとめながら考えることを大切にしています。また「なぜ、いじめることになったのか」という気持ちも同時に受けとめ、背景にある悩みについて考えるようにしています。

「いじめる理由はあっても、いじめても良いという理由はない」を基本に、本校全教員が目や耳を研ぎ澄まし、「いじめ」に関わった子どもたちの各々の心をしっかりと受けとめ、クラスを越えて子どもたちを見守り、子どもたちからの相談、サインに気づくように心がけています。

家庭や地域で、気になることがあればどんなことでもご相談下さるようお願いいたします。いろいろな事案やその指導を通して、子どもたち自身が「いじめ」や自分や相手を大切にすることを研ぎ澄まし学びを深めていくことをめざしています。今後も一人ひとりを見守り、安心・安全な学校生活が過ごせるように、引き続き取り組んでいきたいと思っています。よろしくお願いいたします。